

議 事 録

会 議 名	平成28年度 第2回 教育課程編成委員会
日 時	平成29年2月10日(金) 15:00~17:30
場 所	中央工学校OSAKA 1号館 45教室
参 加 者	[委 員] (敬称略) 小松原 学、猪木 陽子、山田 恭子、内田 利恵子、沖 清忠、 田尻 元子、堀越 保幸(欠席) [関係職員] 中野 吉晟、平上 秀明、中村 聖吾、中島 征治、原 充介、 大林 由佳、戸澤 まり子、西村 宜晃(記録)、岡野 和生
内 容	1. 平成28年度第2回教育課程編成委員会 司会の戸澤先生が開会の挨拶を行い、学校関係者評価委員会が開会した。 (ア) 配布資料の確認 戸澤まり子主任から、本日の配布物の確認・説明を行った。 (イ) 学校長挨拶 中野 吉晟校長から専門学校に関わる社会環境についての報告があった。 ・職業専門大学については、グループ校とともに見守る ・2018年問題による学生減少 ・私立大学が公立大学に変わる動き ・高等学校の定員割れの状況 この環境において当校では「小さな学校で、大きな教育成果」のスローガンの元、BIMに注力し、外部との連携を深め、高等学校の先生方に評価をいただいている。 一方、懸念事項として、途中退学率の増加、資格取得率の低下が挙げられる。

(ウ) 学校関係者評価について

・平上 秀明教務部長から各学科の教育内容について、第1回教育課程編成委員会にて、自己評価に基づいて評価いただいた結果について、中央工学校OSAKA学校関係者評価書（平成27年度）に基づき説明を行った。

(エ) 教育内容について

平上秀明教務部長より各学科カリキュラム表を用いて、平成29年度の各学科のカリキュラムについて説明を行った。

（平成29年度の変更点）

1年生後期以降、週に半日分の課外授業の設置。

建築学科（夜間部）における二級建築士受験対策強化。

(オ) 平成27年度卒業成果・制作作品見学

2月8日・9日に実施された卒業成果・制作発表会の作品について、各学科担任の説明を交えて見学を行った。

(カ) 意見交換

・本日の委員会での意見交換を行った。

(1) 卒業成果・制作作品を見学して

①小松原 学委員

・BIM、施工図など現場に精通したものに取り組んでいる。
大手ゼネコンも教育センターで、新入社員に施工現場作業、施工図作成等を行う研修を行って、施工図の大切さを教えている。

施工現場に大切な実学が専門学校でも重要であり、それが成果としてあがっている。

②猪木 陽子委員

・建築CGデザイン科の動画を見て、自由な発想を感じた。
・さらに経験を積んでもらい将来を楽しみに感じた。

③山田 恭子委員

・細かい部分まで設計がされている。
・実案件コンペは、パナホームでも行っており、こういった

案件は重要である。

④内田 利恵子委員

- ・展示されている学生の作品は素晴らしかった。ただ、それ以外の学生の作品がどのようなものかが、気になる。

⑤沖 清忠委員

- ・建築CGデザイン科のCGのクオリティは年々、上がってきている。ただ、他学科の手書き表現と見比べると、CGではなく手書きがよいという点も感じる。
重要なのは、CGか手書きかではなく、プレゼンテーション表現であり、それを学生が上手に表現できている。
- ・コンペのグランプリ受賞作品が実現されるということであるが、図面と現実の違いを感じれるとても良い経験である。こういった機会をもっと増やすべきだと感じる。

⑥田尻 元子委員

- ・卒業制作で作られている図面、CG等、どれも良くできている。
- ・BIMに頼りすぎると、実物との差で問題が生じることがあるので、実物と触れることが大切。

⑦中野 吉晟校長

- ・作品の期限を守れない学生が多々いる。技術者として期限を守ると言うことを教える事が重要。
- ・発表時間5分が短いという意見もある。与えられた時間をどうするかを考えることが社会人として大切だということを指導する必要がある。

→田尻 元子委員

- ・学生時代に問題のあったと言われる学生を雇用しているが、なんとか頑張っている。諦めずに頑張れるのは、建築に魅力を感じているからであろうと思う。

→小松原 学委員

- ・工業高校の先生が、建設業を把握しきれないことが、問題であり、そういったことが工業高校卒の学生の離職につながっている。

原因となる仕事のミスマッチを防ぐために、専門学校として、建築の魅力を学生にどう発信するかが重要。

→中野 吉晟校長

- ・教育業界では管理強化が進み、自主的な資質向上の時間がとれなくなっている。教員になる人も、実務経験の無い人が増えている。

そういった構造的な問題が、建築の実務の魅力を学生に伝える妨げになっている。

(2) カリキュラムについて

平上 秀明教務部長から平成30年度カリキュラムの説明を行った。

(平成30年度の変更点)

- ・昼間部二年生学科における必修・選択制の導入。

卒業要件として必要な必修科目と、発展的な学習としての選択科目を導入する。

(背景)

- ・特定科目への学生の関心度の低さ（例：施工系、設備系学生のデザイン系科目への関心）が、必修科目による休退学の増加をもたらしている状況。
- ・過剰な課題量による意欲の低下。
- ・経済的な理由

①内田 利恵子委員

- ・選択しなかった学生の過ごし方は任せるのか？

→平上 秀明教務部長

アルバイト、インターンシップをしたいという学生を支援したり、課題が遅れている学生は課題を行うよう指導をする等、空いた時間を有効に使うよう指導をする。

②小松原 学委員

- ・学生達は経済的、学力的に厳しい様と感じ取れるが現状は？

→平上 秀明教務部長

奨学金の受給状況から経済的に厳しい学生が多くなっている。また、性格には問題ないが学力的に問題があり、授業についていけない、経済的な理由からアルバイトをしなければならず、課題が出せない学生が多くなっている。

→中村 聖吾教務室長

日本学生支援機構奨学金受給者が学生の3分の1になる。
授業料の延納、分納を利用する学生もかなり増加している。

→内田 利恵子委員

業界の調子がよければ、建築のアルバイトがよいのでは？

→中島 征治進路指導室長

夜間部は可能性があるが、昼間部の学生は授業のため、
なかなか業界のアルバイトができない。設計事務所は夜
間も業務をしているが、インターンシップが主となる。

→戸澤 まり子主任

アルバイトの影響で、自宅で課題を行う時間が無い。選
択制で空いた時間で、そういった学生を指導したい。

→平上 秀明教務部長

課題の量が多いため、ついてこれなくなる学生の指導の
時間ともしていく。

(3) その他

①平上 秀明教務部長

- ・学校で教えて欲しい内容はありますか？

→小松原 学委員

- ・i-Construction、防災、ドローン等
- ・建築に関する問題提起を教えて欲しい。

→平上 秀明教務部長

建築学科では、日経アーキテクチャを使って講義をして
いる。

→中野 吉晟校長

ロボット施工は、訓練センターで行っているか。

→小松原 学委員

機械施工は、メーカーが利益を得るものであり、そこま
で積極的に進んでいない。

②戸澤 まり子主任

・インテリアに関して、資格の重要性、取得しておくべき資格はあるか？

→猪木 陽子委員

- ・インテリアコーディネーターが認知度高い。インテリアプランナー、インテリア設計士など提案型の資格が良い。
- ・アソシエイトインテリアプランナーができたので、良いかと考えるが、建築よりな点も有る。
- ・認知度は低いが、インテリア設計士1級が最もインテリアデザインに関して幅広く、実学に近い資格である。

→山田 恭子委員

- ・インテリアコーディネーターは必須。
- ・昇格条件に、二級建築士、インテリアコーディネーター或いは一級建築士がある。

→内田 利恵子委員

- ・小さい事務所だと、資格の有無より、やる気、スキルの方が重要。一級建築士だと信頼はあがる。資格の勉強で得る知識もあるのは事実。いつかは取得すべきだが、学生のと時に取るべきということはない。

→沖 清忠委員

- ・CGに関していえば資格はあるに越したことは無いが、絶対ではない。作成する成果品が全てである。
- ・ドローンでいえば、測量士が役に立つ。

→田尻 元子委員

- ・一級建築士が全て。
- ・宅地建物取引士

2. 閉会の辞

司会の戸澤まり子先生が閉会の挨拶を行い、教育課程編成委員会
が閉会した。

【配付資料一覧】

- ・各学科カリキュラム表
- ・中央工学校OSAKA学校関係者評価書（平成27年度）
- ・中央工学校OSAKA 学校案内2018<抜粋>
- ・平成28年度卒業成果・制作発表会パンフレット

以上